

追悼

光吉健次先生を悼む

九州大学大学院人間環境学研究院教授

萩島 哲

光吉健次先生は、平成12年2月10日に脳梗塞で突然倒れました。その日の午前中までは、全く普段とかわらない様子であった、と奥様から伺いました。そして、同年3月8日23時25分、光吉健次先生のご回復を見ぬままに、お別れすることになりました。74歳でありました。

先生は、平成12年1月2日にお会いした時には、20世紀から30世紀にかけてのスタートの時期にあることを十分に認識して都市の計画をやらねばならないことを、ヨーロッパの都市が1000年を超えて成立している事実をあげられながら、繰り返し説かれていましたし、プロフェッションとしての都市計画の重要性を厳しく諭されていました。参加型まちづくりの必要性が高まり、都市計画の分権化の時代にあって、大所高所から先生の率直なご指摘・ご教授が今後ますます必要であったと考えるのは、私だけではありません。

先生は、昭和30年に九大に赴任されて以来、今日まで一貫して、九州地域の都市設計、都市計画に貢献されてきました。例えば、昭和35年全国に先駆けて旧5市合併直後の北九州市総合計画が立案された時、その中心メンバーとして参画され、社会学、交通工学、財政学、経済学、建築学、都市計画学の共同作業の中からメッシュを活用した土地利用計画の手法を開発されました。今でこそメッシュデータによる解析は、珍しくもありませんが、体系的なテキストがまだ完成されていない時期においては、科学的な手法として注目されましたし、異分野との共同作業は、都市計画の分野の裾野を膨らませ画期的な業績をもたらしました。

さらに、九州各県の主な都市をくまなく回られ、都市診断という形でアドバイスを行われましたし、具体的なイメージを都市設計という観点から提案を行われました。九州の各都市の骨格やマクロ的位置づけは、これらの提案によって達成されたと



故 光吉健次 氏

本会の名誉会員光吉健次氏には

平成12年3月8日永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

言っても過言ではありません。

一方、先生は建築設計の方法を地区レベルの再開発計画、地区整備計画などに適用しながら都市設計の方法を少しずつ確立されていき、コミュニティ計画やアジア太平洋博覧会のレイアウトプラン等のフィジカルプランに結実していき、福岡市のY字型構造のマクロ的発想は、先生のアイデアによるものでありました。

また私は、1987年日本都市計画学会（当時の会長は川上秀光先生）が大韓国土計画学会の訪日団を九州の各地で受入れた時、行政対策にご奔走いただきました先生の国際感覚に学んだのも、ついこの間のように覚えております。

また先生のスポーツのセンスは抜群であり、数年前まで野球、ゴルフはアマチュアのレベルを超えておりましたし、お酒の量も到底私達が太刀打ちできるものではありませんでした。また先生は、マクロ的観点からものごとを把握され、大きい方針については厳しく吟味され、しかしながら些細

な点については拘泥されませんでした。要するに先生は、柔軟な思考のもとで実践というものを大事にされ、人生をゆとりをもって過ごすというのが哲学ではなかったかと、それが先生の考える都市デザインの基本ではなかったのか、考えております。

私達は、先生のこのような都市計画思想に学び社会に貢献しなければならないと考えております。ここに謹んで、先生のご冥福を、お祈り致します。

光吉健次先生の足跡

福岡大学工学部教授 黒瀬重幸

本学会名誉会員 光吉健次先生は、2000年3月8日、脳梗塞のため急逝されました。74歳でした。先生は、1973年から1990年まで評議員として本会の運営に参画され、1992年には九州支部設立にご尽力になり、本会の初代九州支部長を1992年から1994年までお勤めになりました。その間の本会への貢献と都市計画へのご功績により、1997年に名誉会員となられました。

先生は、1925年3月、鹿児島市でお生まれになり、旧制第七高等学校を経て、1950年に東京大学をご卒業になり、東大大学院では丹下健三先生のご指導のもと、建築設計、都市設計の研究及び実務に従事されました。1955年12月に九州大学工学部建築学科助教授として赴任されています。

光吉先生の助教授時代は、創設して間もない九州大学工学部建築学科を育てあげるのに全力を注がる毎日でした。先生は、研究・教育活動の中でも、とくに建築・都市の設計教育に主力を置かれました。門下生を指導しながら設計された作品は、七山小学校、小倉駅北口再開発計画、九州大学50周年記念講堂、博多駅周辺計画など、枚挙に暇がありません。先生は、これらの意欲作を次々と専門誌に公表し、九州を拠点として活動する建築家・都市計画家として名を馳せられました。

さらに先生は、ご専門の都市設計、都市計画の分野において独創的な着想に基づく優れた研究業績をあげられています。特に、都市計画学では、土地利用計画の手法、都市施設の立地分析、アジアの都市研究などに先駆的に取り組まれ、様々な

都市問題の究明にご尽力されました。1971年には、「地方都市の計画と設計に関する基本的考察」で工学博士の学位を取得、教授に昇任されています。その後も、新門司清掃工場、福岡県宮団地の一連の基本計画をはじめ、多くの計画・設計をてがげられ、1988年にご退官されるまでの三十有余年にわたり、人材の育成に、あるいは九州の都市計画に関する行政への指導、助言などにご尽瘁されました。

ご退官後は、九州大学名誉教授として、財団法人福岡都市科学研究所理事長を務められ、都市計画の学術成果の普及にご尽力されました。福岡市国土審議会会長、同総合計画審議会委員長、同都市計画審議会会長、福岡県文化懇話会座長、佐賀市中央地区更新開発計画委員会会長、北九州市ホープ計画策定委員会会長など、九州各地の都市計画行政に関する数多くの委員長、会長職を歴任され、自治体のマスタープラン策定や、住宅地開発、生活環境の整備など、わが国の都市の発展に大きく貢献されました。1989年に福岡市で開催されたアジア太平洋博覧会のマスタープラン及びその実施設計、シーサイドももち開発計画をはじめ、計画・設計活動も精力的にこなされていました。以上のような都市計画の推進によるご功績に対して建設大臣賞を受賞されています。

さらに、福岡市ユネスコ協会副会長として文化活動にも参与され、日本を研究する海外研究者との国際交流を通じて、日本の理解をひろめる定期的国際会議の開催を実現されるかたわら、「明日の建築と都市」、「遺産と創造」など、デザイナーの視点からみたユニークな建築・都市史観を著されており、これらは永く後世に読み継がれることと思います。

ここに謹んで、生前のご功績に対し限りない尊敬と感謝の意をささげ、先生のご冥福をお祈りいたします。